

令和3年度 ACTR

分類 番号	A18	取組 名称	京の“ほかすモン”をいろいろに変えて新しい“京”を表現する
研究代表者所属・職名：		大学院生命環境科学研究科・教授	氏名： 細矢 憲
研究担当者：			
京都府立大学（細矢 憲）			
外部分担者・協力者（村田良平氏、玉岡昭彦氏、山形 歩氏、熊内得二氏、田中俊成氏、ほか）			
主な連携機関			
京都府京都市、綾部市、宮津市、舞鶴市、和束町、京丹波町 など りてん堂、いとをかし、太平印刷（株）、タマヤ(株)、竹又 など			
【研究活動の要約】			
<p>京都府内には様々な「名産品」があります。が、その陰で、<u>必ず膨大な「廃棄物」</u>が出ます！</p> <p>この研究では、府内各所の<u>名産品の陰にある廃棄物</u>や、京都府各所の<u>土、竹、藁、藁</u>などほかすモンをアップグレードすることで、コウゾなどの墨の黒色だけではなく、牡蠣殻の<u>白</u>、抹茶の<u>緑</u>、茶殻の<u>茶</u>、赤土の<u>朱</u>など様々な“<u>いろいろ</u>”を生み出し、独自手法で新しい京の表現を実現する、という<u>府全域を対象</u>とする新しい地域貢献を目指しています。</p> <p>そこで、古くからある「つちえのぐ」に学び、さまざまないろいろを、最近若い女性を中心に人気のある、これも古くて新しい「活版印刷」と組み合わせることで、<u>いろいろを形として表現</u>しました。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>この研究では、以下に示す3つのテーマに沿って研究を進めました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 府内各所の名産物の陰に隠れた「廃棄物」や土、植物を調査・収集・分析する 2. 様々な廃棄物、土、植物を微粉碎し、新しいいろいろ（土絵の具）を創出する 3. 様々ないろいろを用いて、古きに学ぶ印刷手法を活用し、新しい京を表現する <p>「絵手紙」を想像してもらおうと、何気ない日常を「絵」として文章に取り込むことで、まさしく目に浮かぶ「いろいろ」を手紙に添えることが可能になります。この時、「絵」として添えられる対象は、花はもちろんとして、景色だったり、果物だったり、野菜だったり、名産物だったり、それらは、そのものの「形」だけではなく、実に自然ないろいろを生み出していることに気がつきます。</p> <p>この研究では、<u>「土」「牡蠣の殻」「藁」「万願寺唐辛子」「お茶がら」</u>などを「いろいろ」の基として、それらを和紙に漉き込むことや、微粉碎して活版印刷インクにすることで、そのものの「色」をダイレクトに「いろいろ」として表現する方法について、さまざまな研究を行い、幾つかの成果を得ました。</p>			
【研究成果の還元】			
<p>「参考」ページにも示しましたが、主な成果の還元としては、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 土えのぐと活版印刷のワークショップの開催（8月12日、13日、14日、京丹波町旧質美小学校） 2. 世屋和紙（いとをかし）と活版印刷のコラボによる2022年いろいろこよみの作成と販売 3. いろいろコースターや、名刺用紙の作成 <p>など、具体的にいろいろを形にすることで府民の方への還元を行いました。</p>			
【お問い合わせ先】			
<p>生命環境科学研究科 高分子材料設計研究室 教授 細矢 憲</p> <p>Tel: 075-703-5444 E-mail: hosoya@kpu.ac.jp</p>			



2021年度の活動の点描（京のいろどり）
京都府立大学 細矢 憲



土えのぐと
活版印刷
ワークショップ
—いろとりどりの私たちの土—

ACTR「土えのぐと活版印刷」

「京の“ほかすモン”をいろどりに変えて新しい“京”を表現する」
「土えのぐと活版印刷ワークショップ」京丹波町の旧質美小学校にて開催されました。
参加者は、土から作ったオリジナルの土えのぐを使って絵を描いた後、活版印刷で言葉を入れ作品を作り、実際に自分でえのぐを作る作業や活版印刷の体験は、日常生活ではあまり経験できないことであり、参加者はそれぞれの作業を楽しまれました。3日間のワークショップで23名の参加があり、全作品46点を会場に展示しました。（代表者：生命環境科学研究科 細矢憲教授）



「京の“ほかすモン”をいろどりに変えて新しい“京”を表現する」

研究担当者：京都府立大学大学院生命環境科学研究科 細矢 憲教授

研究成果として作成された「和紙と活版のこよみ」



いろどりコースター



いろどり名刺+活版印刷